

注意点1

少し特殊な半拍3連の空振りをマスターしよう

このフレーズに登場する半拍3連は、8分音符1個分に3音を鳴らすリズムで、6連符の半分だと思えばよいだろう(図1-a)。つまり16分音符の中に半拍3連が入っているフレーズを弾く際には、理論上16分音符2個分のピッキング(ダウン&アップ)で3音を鳴らせば、リズムが狂わないようになるのだ。このフレーズでは、半拍3連をハンマリング&プリングで弾くのだが、ピッキングはダウンのみで、アップは空振りとなっている。3連ということで2音分空振り(アップ&ダウン)すると、次に来る16分音符のアタマの音のピッキングがアップになってしまうので注意しよう(図1-b)。慣れるまでは、この半拍3連と16分音符2個分のフレーズをくり返し練習すると良い。

図1-a 半拍3連について

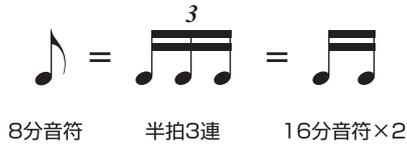
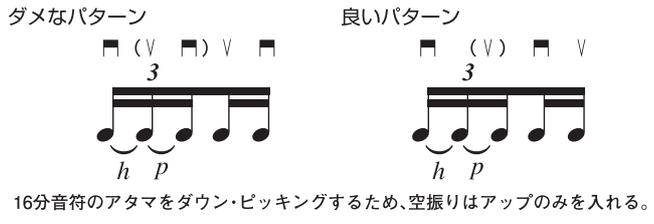


図1-b 半拍3連時の空振り

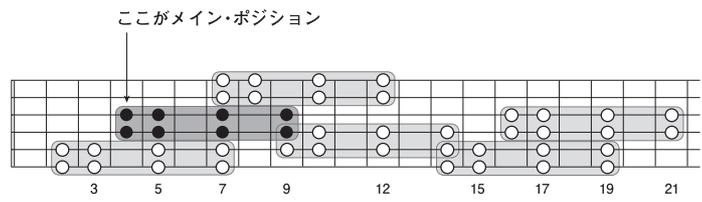


注意点2

Eナチュラル・マイナーのポジションを覚えよう!

このフレーズで使われているポジションは、非常にシンプルな内容となっている(図2)。そのため上昇&下降のタイミングをつかめば、意外と楽に弾けるだろう。スケールはEナチュラル・マイナー・スケールとなっているが、このポジションはナチュラル・マイナー・スケールでよく使われるパターンなので、必ず覚えよう。図2には、メイン・ポジション以外のポジションも紹介しているので、これを覚えたら、他のポジションも弾いてもらいたい。このように同じスケール内でさまざまなポジションを覚えると、フレーズの幅を広げることができるので、どんどん試してみよう。

図2 Eナチュラル・マイナー・スケール



~コラム17~ 地獄の戯れ言

2本弦のみを使用し、弦移動や平行移動を駆使して作られるギター・ソロは意外と多い。そのため2本弦間を高速に行き来できるピッキングを覚えると大きな武器になるだろう。手首を固定した状態でのピッキングは、手の振りが大きくなり、速い動きができない(図3-a)。より素早く、無駄のないピッキングをするためには、手首の力を抜き柔軟な動きをするようにすれば良いのだ(図3-b)。超絶ギタリストに手首が柔らかい弾き方=“手首グニャグニャ系”が多いのは、このためだと思われるが、しっかりと音が出せる程度まで手首の力を抜き、正確なピッキングができるように練習してほしい。

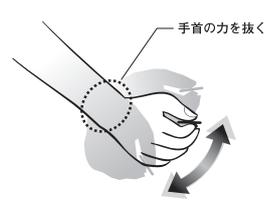
ピッキングの高速化を図るための手首の使い方

図3-a



手の振りが大きくなり、速いピッキングができない。

図3-b



柔軟な動きにより、速いピッキングができる。